

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

社会福祉法人
アパティア福祉会
事業者名：

※実施内容については、要綱別紙2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」を網羅すること。

研修カリキュラム（要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容
1 職務の理解	6 時間	時間数	うち通学	うち通信	1 職務の理解	
(1) 多様なサービスの理解		2.5	2.5		(1) ●介護保険サービス(居宅、施設) ●介護保険外サービス	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3.5	3.5		●居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ●居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ (2) ●ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種連携、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	時間数	うち通学	うち通信	2 介護における尊厳の保持・自立支援	
(1) 人権と尊厳を支える介護		4.5	1	3.5	(1) ●人権と尊厳の保持に ●ICF ●QOL ●ノーマライゼーション ●虐待防止・身体拘束禁止 ●個人の権利を守る制度の概要	
(2) 自立に向けた介護		4.5	1	3.5	(2) ●自立支援 ●介護予防	
3 介護の基本	6 時間	時間数	うち通学	うち通信	3 介護の基本	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		2	1	1	(1) ●介護環境の特徴の理解 ●介護の専門性 ●介護にかかわる職種	
(2) 介護職の職業倫理		2	1	1	(2) ●専門職の倫理の意義 ●介護の倫理 ●介護職としての社会的責任 ●プライバシーの保護・尊重	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1	0.5	0.5	(3) ●介護における安全の確保 ●事故予防、安全対策 ●感染対策	
(4) 介護職の安全		1	0.5	0.5	(4) ●介護職の心身の健康管理 (ストレスマネジメント、腰痛予防、手洗い・うがい、感染症)	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		時間数	うち通学	うち通信	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 介護保険制度		4.5	0.5	4	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ●仕組みの基礎的理解 ●制度を支える財源、組織・団体の機能と役割
(2) 医療との連携とリハビリテーション		3	0.5	2.5	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ●医療行為と介護 ●訪問看護 ●施設における看護と介護の役割・連携 ●リハビリテーションの理念
(3) 障害者総合支援制度及びその他制度		1.5	0.5	1	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者福祉制度の理念 ●障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ●個人の権利を守る制度の概要
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		時間数	うち通学	うち通信	5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 介護におけるコミュニケーション		3.5	1.5	2	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ●コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ●利用者、家族とのコミュニケーション ●利用者の状況に応じたコミュニケーション技術
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		2.5	1.5	1	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ●記録における情報の共有化 ●報告、連絡、相談の留意点 ●コミュニケーションを促す環境
6 老化の理解 6時間		時間数	うち通学	うち通信	6 老化の理解	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常		3	1.5	1.5	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ●老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ●老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康		3	1.5	1.5	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の疾病と生活上の留意点 ●高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
7 認知症の理解 6時間		時間数	うち通学	うち通信	7 認知症の理解	
(1) 認知症を取り巻く状況		2	1	1	(1)	●認知症ケアの理念
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		2	1	1	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の概念 ●認知症の原因疾患とその病態 ●原因疾患別ケアのポイント ●健康管理
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		1.5	0.5	1	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ●認知症の利用者への対応
(4) 家族への支援		0.5	0.5	0	(4)	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の受容過程での援助 ●介護負担の軽減(レスパイトケア)

8 障がいの理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ところとからだのしくみと生活支援技術		7.5時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障がいの理解	時間数	うち通学	うち通信
(1) 同左	1.5	0.5	1
(2) 同左	1	0.5	0.5
(3) 同左	0.5	0.5	0
9 ところとからだのしくみと生活支援技術			
ア 基本知識の学習			
(1) 同左	2	1	1
(2) 同左	2	1	1
(3) 同左	6	2	4
イ 生活支援技術の講義・演習			
(4) 同左	5	5	0
(5) 同左	4	4	0
(6) 同左	6	6	0
(7) 同左	8	8	0

8 障害の理解	
(1) ●障がいの概念とICF ●障がい者福祉の基本理念	
(2) ●身体障がい ●知的障がい ●精神障がい ●その他の心理の機能障がい	
(3) ●家族への支援	
9 ところとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) ●倫理に基づく介護 ●法的根拠に基づく介護	
(2) ●学習と記憶の基礎知識 ●感情と意欲の基礎知識 ●自己概念と生きがい ●老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ●ところの持ち方が行動に与える影響 ●からだの状態がところに与える影響	
(3) ●人体の各部の名称と動きに関する基礎知識と生活支援 ●骨・関節・筋に関する基礎知識 ●ボデーメカニクスの活用 ●中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ●自律神経と内部器官に関する基礎知識 ●ところとからだを一体的に捉える ●利用者の様子の普段との違いに気づく視点	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) ●家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援	
(5) ●快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法	
(6) ●整容に関する基礎知識、整容の支援技術 (衣服の選択・着脱、身じたく、整容行動、洗面)	
(7) ●移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援	

(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	6	6	0	●食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	9	7	2	●入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	9	7	2	●排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	2	2	0	●睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	4	2	2	●終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通学	うち通信	ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	4	4	0	●介護過程の目的・意義・展開 ●介護過程とチームアプローチ
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	8	8	0	●生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得
10 振り返り 4時間	10 振り返り	時間数	うち通学	うち通信	10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 同左	2	2	/	●研修を通じて学んだこと (1) ●今後継続して学ぶべきこと ●根拠に基づく介護についての要点
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	(2) 同左	2	2	/	●継続的に学ぶべきこと (2) ●研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所などにおける実例の紹介
追加カリキュラム					
計 (130時間)	計 (130時間)				

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実施内容には、講義内容、演習の実施方法、通信学習課題の概要等を記載すること。（別紙でも可）
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。